

特集「未来の暮らしを支えるパーベイシブシステムと高度交通システム」の編集にあたって

河口 信夫^{1,a)}

ネットワークで結ばれた情報通信機器の普及と知的情報処理技術の発展にともない、IoT 家電、自動運転など暮らしに身近なシステムが高度化しつつあり、情報処理技術には今後さらに安心・安全・快適な時代の実現が求められることになる。その実現に向けて理論的な基礎を与えるものから、様々な実用研究や商用化を目指した開発、実生活での応用を想定した実証実験などが進められている。パーベイシブシステム分野においては、IoT や M2M といったユビキタスな応用や LTE や 5G などの広帯域無線通信技術、アドホックネットワークやセンサネットワーク技術の研究開発と、これらのシステムから得られた情報を有効に活用する方法が提案されている。またこのような研究は知的情報処理と組み合わせられて新たな価値創出への貢献が期待される。

これらのテーマについて、情報処理学会モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL) 研究会と高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS) 研究会が中心となり、毎年 100 件以上のすぐれた研究が発表されている。また、1997 年から開催され、継続的に開催されている DICOMO シンポジウムでも、これらの分野に関連する論文が数多く発表されており、裾野の広がりを示している。MBL と ITS に係わる論文を一括掲載することにより、この分野の研究をさらに推進し、その発展に寄与することは情報処理学会として意義のあることである。本特集号はこのような研究推進を目的とし、MBL 研究会と ITS 研究会が共同で企画した。

本特集号の編集経緯は、以下のとおりである。

論文募集公開：2017 年 11 月 10 日

投稿締切：2018 年 4 月 11 日

第 1 回特集委員会 2018 年 4 月 16 日

第 2 回特集委員会 2018 年 6 月 11 日

第 3 回特集委員会 2018 年 9 月 18 日

投稿数 21 件に対し、慎重に審議した結果、条件付き採録が 14 件、最終的には 13 件の論文が採録された。採録率

は 62% である。採録論文の内訳は、モバイル/センサネットワーク 4 件、位置推定/行動認識 4 件、車両認識/車両状態推定 3 件、位置情報サービス 2 件である。

本特集では、1 編の招待論文を寄稿いただいた。Space-Time Engineering の高井峰生氏らによる、ネットワークシミュレータ Scenargie に関する論文である。ネットワークシミュレータはモバイルコンピューティング・ITS の研究において頻繁に利用されていることから、多くの読者の関心に適うものと確信する。

編集委員会としては、モバイルコンピューティング分野、および高度交通システム分野の幅広い技術の中から、注目されている分野の技術に関して質の高い論文を採録できたと考えている。MBL/ITS の幅広い分野での投稿があったことから、特集号の目標は達成されており、今後も本特集号を継続していく予定である。最後に、幹事および編集委員の方々と、投稿していただいた会員の皆様にお礼を申し上げます。

「未来の暮らしを支えるパーベイシブシステムと高度交通システム」特集号編集委員

- 編集長
河口信夫 (名古屋大学)
- 幹事
梶 克彦 (愛知工業大学)
- 編集委員
野呂正明 (富士通研究所)、西出 亮 (神戸大学)、奥健太 (龍谷大学)、玉井森彦 (国際電気通信基礎技術研究所)、高橋ひとみ (日本 IBM)、後藤佑介 (岡山大学)、廣井 慧 (名古屋大学)、湯 素華 (電気通信大学)、木谷友哉 (静岡大学)、柴田直樹 (奈良先端大学院大学)、白石 陽 (公立ほこだて未来大学)、梅津高朗 (滋賀大学)、石田繁巳 (九州大学)、澤野弘明 (愛知工業大学)、川井 明 (滋賀大学)、大村 廉 (豊橋技術科学大学)、鈴木秀和 (名城大学)、村尾和哉 (立命館大学)、内山 彰 (大阪大学)、清原良三 (神奈川工科大学)

¹ 名古屋大学未来社会創造機構
Institutes of Innovation for Future Society, Nagoya University

a) kawaguti@nagoya-u.jp